

令和6年度 大田区立徳持小学校 自己評価 報告書

令和7年2月28日

○ 本校の概要

640名(9月1日現在)20学級、教員数(管理職2、担任20、専科3、養護1、栄養士1、講師5)  
 令和6年度 おおた未来づくり科学研究指定校 コミュニティスクール(令和5年1月より) たてわり班活動、代表委員会による「いじめ撲滅宣言」「ユニセフ募金」  
 教員研修ではWeb QU活用、ICT活用自主研修、火曜日8時程に会議の時間の確保(働き方改革)

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
							評価人数	コメント	
生予個 き測別 力難標 をな1 育未 成来 し社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:80%以上	おおたの未来づくり科学研究推進校の指定を受け、全教職員で研究をすすめてきた。STEAM教育として、5年生では3Dプリンターを使用した取り組み、6年生ではMiScreenを活用したエコバック制作に取り組んだ。今後は互いに授業観察できる環境をつくりよい授業展開を学ぶ場を実現する。	A	7	・机上の勉強だけでなく実践を伴った学びに児童の達成感を感じさせ、より勉強意欲を持たせたとところがすばらしく思えた。 ・教員個々のタブレットに対する使いこなしのレベルの差はまだよく聞くので、底上げに期待。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3:70%		B	3	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2:60%		C	0	
					1:60%未満		D	0	
お世個 お界別 た目 を目標 担な2 うが 人 材 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:80%以上	全学年において地域学習・特に体験型の学習に取り組み、児童が主体的・協働的に学ぶ場の設定を行ってきた。今後も「夢を育む感動体験」をモットーに児童が「見たい」「やりたい」と思える教材研究を推進する。	A	7	・現実の社会に興味を持たせる学習方法が素晴らしい。 ・神社仏閣や商店街を教育の場としてより巻き込めるとよいと思った。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3:70%		B	3	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2:60%		C	0	
					1:60%未満		D	0	
た一個 め人別 の目 基と標 礎り3 とが な個 性力と を能 力 成 を し 発 揮 す る	児童・生徒が豊かな人生を生きる上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:80%以上	道徳科推進担当中心となり、毎月「徳持ハート週間」として全学級で共通の内容項目で授業を行ってきた。また、6月のふれあい月間では各学級の人権目標を作成し、11が鶴ではさらに振り返り活動を行ってきた。心理的安全性の高い学級経営を目指し、児童の生活アンケート(WEBQU)の検査結果を全校で分析を8月12月で行い、対策を考えてきた。今後もデータを活用して課題発見・対策していく。	A	8	・一人一人は違っていていい。小学生のうちにちいさなことでよいので、自分の得意なことを見付けられるとそれが基本となって生きる自信の力となり、前向きに物事をとらえられると思う。 ・一部学年に課題は感じたが、低学年まで全体としては落ち着いた学校と感じる。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3:70%		B	2	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2:60%		C	0	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1:60%未満		D	0	

学個別 校別 力目 ・標 教4 師力 を向 上さ せま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	学校公開時の保護者アンケートにおける肯定的評価の割合	4:80%以上	校内研修として授業だけでなく児童見取り方をデータより分析する研修のほか若手教員中心となるICT研修を定期的に行ってきた。転入教員も理科委が深まるとともに若手教員が教えてに回ることによって学校貢献度が高まった。教員の病休や退職により校務分掌の業務に負荷がかかっているため、同調性を高め、教員間のコミュニケーションをより多くとれるようにする。	A	8
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:70%		B	2
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			2:60%		C	0
						1:60%未満		D	0
た自個 め別 の目 学し 標 びを い き 支 援 し ま す と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童の自己評価において、「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合	4:80%以上	配慮が必要な児童に対し、不登校対策担当及び特別支援コーディネーターを中心に、定期的な校内委員会を開き対応策を講じてきた。必要に応じて保護者や児童の希望に沿い、環境を整えてきた。また別室登校できる環境を毎日整え、受け入れ体制ができた。いじめ防止基本方針を全教員が理解し、随時研修を行った。早期発見早期解決のために、生活アンケートを活用し、児童と教員との個別面談を丁寧に行った。今後もスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと連携し、児童・保護者が相談しやすい環境づくりに励む。	A	8
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			3:70%		B	2
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:60%		C	0
						1:60%未満		D	0
安柔個 心軟別 なで 目 教創 標 育造 環 境 を学 習 空 間 と 安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートにおいて「学校満足度」の割合	4:80%以上	落ち着いた学習環境を整え、今年度より児童のアウトプットの場である学習発表会を毎年実施とした。学習発表会では56年生において授業で取り組んできたことを中心に(地域創生とものづくり)発表した。また徳持フェスタ(児童会のこども祭り)ではごみのでないフェスタとしたところ各自がもちタブレットをフル活用した遊びを考案できていた。安全指導については消防署、警察署と連携しながら進めた。	A	9
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:70%		B	1
						2:60%		C	0
						1:60%未満		D	0
学地学 校校 域別 をコ ・目 つミ 家標 ユ庭 7 リニ ・地 すイ 域 の核 連 と携 し て協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートにおいて、「学校は地域を児童の教育活動に生かしている」と回答した保護者の割合	4:80%以上	今年度はコミュニティスクール2年目として5回の学校運営協議会で学校運営に関する熟議を行ってきた。「見守りホルダー」を作成し、地域での見守り強化をすすめていただいた。高学年の授業では学校運営協議会の方を中心に児童と直接かかわりをもつことができ、町会の未来について児童が考えるよい機会となった。また12月には地域の方とともに児童会の栽培委員会及び6年生とで450球の球根を植えることができた。	A	5
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:70%		B	5
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:60%		C	0
						1:60%未満		D	0

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す